

## 2016年度 個人特別研究費 研究成果報告書

所属・職・氏名：社会学部・荻野昌弘

研究課題：世界遺産と戦争災害に関する比較社会学的研究

研究期間：2016年4月1日～2017年3月31日

### 研究成果概要（2,000字程度）

研究期間開始から、まず、3年間の科学研究費助成による調査資料を吟味し、世界遺産に関する成果を刊行するために、何がもっとも欠けているかについて検討した。

そもそも、世界遺産制度は、創設以来、戦災と深く結びついている。なぜなら、災害などの被害を被り、保存の危機に瀕している文化遺産の修復・保全のために、この制度は作られたからである。ひとたび世界遺産に登録されても、災害などによって遺産が破壊されたり、そのリスクが出てきた場合、世界遺産は、危機遺産に指定される。研究期間前から調査済みのクロアチアのドゥブロブニクは、旧ユーゴスラビアの内戦によって危機遺産に指定され、その後指定は解除された。それは、ドゥブロブニクの復興過程において、観光客を集客するため、世界遺産であることが大きな意味を持っていたからである。また、ポーランドのワルシャワは、町が第二次世界大戦中に徹底的に破壊されたが、戦前の町並みを忠実に再現する復興を遂げたことが評価されて、世界遺産に登録された。カンボジアのアンコールワットは、カンボジアの内戦で放置されていたが、カンボジアの復興に積極的に活用されている。

以上の事例は戦災復興と深く結びついている事例である。これに対して、日本では「負の遺産」と呼ばれている一連の遺産があり、その代表が原爆ドームである。ワルシャワなどの事例は、戦災の痕跡を払拭する方向に向かったが、原爆ドームは、逆に原爆投下の事実を端的に示す爆心地近くの建造物である。原爆ドームの永久保存が決定するまでの経緯には、さまざまな葛藤があったが、世界遺産となることが決定した。今年、隣接する原爆資料館東館もリニューアルされ、広島を訪れる観光客は増加の一途をたどっている。

原爆ドーム以外で、世界遺産に登録されている被爆遺産がもうひとつある。それは、ビキニ環礁である。1946年から58年にかけて、ビキニでは23回核実験が行われた。日本の第五福竜丸が被爆したのも、ビキニでの核実験に巻き込まれたためである。日本における原水爆反対運動は、まさにこの第五福竜丸事件から始まっており、原爆ドームの永久保存も、こうした反核運動がなければありえなかった。

本研究では、8月に原爆ドームと記念公園、原爆資料館を訪れ、現時点での状況を把握しようとした。その後、12月に、ビキニ環礁があるマーシャル諸島共和国のマジュロを調査した。世界遺産であるマジュロから600キロ離れたビキニ環礁の調査は予算の関係上不可能であったが、ビキニ環礁のかつての住民は生まれ故郷に戻ることができないため、ビキニ環礁の市庁舎はマジュロにある。かつての生業を奪われた住民たちは、クワジュリン環礁の米軍基地に働きに行くことなど、就くことができる仕事は限られている。マーシャル諸島の住民全般にいえることだが、伝統的にカヌーを用いた漁業に携わり、タロイモやヤシなどによって食を満たしていたひとびとにとって、アメリカの影響下で急速に進んだ「近代化」は、まったく伝統とそぐ

わないものだった。台湾資本のスーパーマーケットには、大量の缶詰やカップ麺、コカコーラなどのドリンク類が並んでいる。食生活はまさに「アメリカナイズ」されているのだ。町中には、教会が立ち並び、そこな社交の中心となっている。特に大音響でゴスペルを鳴らしながら、ひとびとはそこで踊る。まさに、教会がディスコと化している。

広島、長崎の原爆投下から始まった核被害は、ビキニ環礁などにおける核実験を経て、一方で、原子力の「平和利用」であったはずの原発の事故、一方で湾岸戦争などで使用された劣化ウラン弾などにつながる。ビキニの核実験で日本の漁船「第五福竜丸」が被爆したのが、1954年であり、原爆ドームの保存運動につながる動きは、まさにこの事件を契機とした反核運動の結果である。

世界文化遺産となった原爆ドームやビキニ環礁は、何を語るのか。何が残されていくのか。こうした問題を捉えるうえで、「時間」とは何かをあらためて考える必要がある。時間とは本来流れるものであるが、流れずに時間が「凍結」してしまう場所がある。時間の凍結とは、ある場所がかつての姿を留めたまま放置されている状態を示す。文化遺産制度は、まさにこの凍結状態を融解し、現在の時間の流れの中に、この凍結空間を組み込むことを意味する。原爆ドームやビキニ環礁の世界遺産化は、まさに凍結解除なのである。

なお、時間概念の考察を中心にした本研究の成果の一端は、南オーストラリア大学で3月22日と23日に開催された国際シンポジウムにおいて、Disaster and Time と題して報告した。刊行に向けては、現在 Routledge 社と交渉中である。

本報告書は、データで [gakunai@kwansei.ac.jp](mailto:gakunai@kwansei.ac.jp) まで提出してください。